



新技術・新事業の発信基地として

執行役員 米州統括
望月 幹夫

ニューヨークに本社を置く IHI INC. は、2008 年 7 月に IHI グループの海外拠点の先陣を切って地域統括会社・事業会社化しました。その後、石油・ガス関連のビジネスに対応するため、2010 年 1 月にヒューストン事務所を、同年 10 月にはリオデジャネイロにブラジル現地法人を設立しました。2006 年には、発電関係のコントラクターが集まるカンザスにボイラを主力とするチームを移しており、今後はこれらのネットワークを活用して米州全域に活動を広げていく方針です。

それでは、最近の実績と今後の展望を分野別に紹介します。

まずは石油・ガス、エネルギー関連ですが、今アメリカでは業界の地図が大きく塗り替えられようとしています。というのも、シェールガスの出現によってガスの価格が下がり、従来 LNG の輸入国であったのが、逆に輸出が検討されるほどの方向転換が行われているからです。IHI は Aker Solutions (現 Kvaerner

社) と JV を組んで Cameron LNG (ルイジアナ州) と Gulf LNG (ミシシッピ州) の 2 件の LNG 受入基地の建設工事を受注しましたが、今後は既存の受入基地の輸出基地への転換工事、中小規模の LNG 液化設備の需要が伸びるものと予想され、これらの案件に注力していくつもりです。

一方、依然として全米の電力の 40% を賄う石炭火力ですが、環境面の規制から今後は新設発電所の建設が厳しく制限される方向です。IHI は OPPD No. 2 (ネブラスカ州)、Plum Point (アーカンソー州)、Sandy Creek (テキサス州) とたて続けに 3 件の石炭焼きボイラを受注し電力業界に確固たる地歩を築きましたが、当面は他社製のボイラを含む既存設備の改修工事、AQCS (Air Quality Control System) などの環境機器に注力していきます。

福島原発事故の影響が懸念されるアメリカの原子力発電ですが、オバマ政権は今のところ原子力推進の立場を堅持しています。ただし、徹底した安全基準の見

直しが行われること、および建設コストが膨大なため事業主体が軒並み資金調達難に見舞われていることから、予想していた以上に時間が掛かる見通しです。

こういう状況下、安価なガスが利用できることから GTCC (Gas Turbine Combined Cycle) 発電設備の需要が伸びると予想されます。IHI は GTCC に付設される HRSG (廃熱回収ボイラ) の市場参入を目指しています。

ガスタービン本体については、2 年前から IHI の主力機種である航空機エンジン転用型 LM6000 の整備事業に乗り出し、着実に受注実績を伸ばしつつあります。

北米以外の地域における石油・ガス分野では先に述べたようにブラジルに注目しています。特に国営石油会社 Petrobras が計画している F-LNG 案件に IHI 独自の SPB タンクが採用されるよう活動を展開中です。

次にインフラ関連ですが、最も注力しているのは橋梁分野です。

IHI のアメリカ向け橋梁ビジネスは、1970 年代から 80 年代初めにかけて、ミシシッピ川流域を中心に約 20 件の実績を残しましたが、この時期は日本国内

の工場で作成した桁・塔・ケーブルなどをアメリカの元請ゼネコンに輸出するスタイルでした。

現在施工中のニューオーリンズ市 (ルイジアナ州) に架かる Huey P. Long 橋の拡幅工事では、地場ゼネコン 2 社と JV を組成し、IHI として初めて元請として工事に参画しており、今後は高いハードの技術力を発揮しつつ、元請として継続的に受注を伸ばしていく方針です。

最後に新分野ですが、2007 年から IHI INC. に技術アタッチェが常駐し (現在 3 代目)、技術情報の収集や新しい事業領域の発掘に従事しています。この活動の中から、リチウムイオン電池や非接触給電のように実用化に向けて適用を開始したものもあります。

また、前述しましたように、動きが速くかつダイナミックなアメリカのエネルギー業界のトレンドを察知してエネルギー関連の新事業を創出する活動も開始しました。

技術先進国のアメリカに拠点を構えるという地の利を活かし、IHI グループのグローバル化の先駆けとして、IHI INC. のメンバー一同、新技術の発掘、新事業の推進に努める所存です。

